



かどや通信

第37号

発行日：令和2年3月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

なかまちに若い息吹?!
地域活性化に学生注目!

昭和の賑わいを取り戻そうと鳥羽三丁目から四丁目の店舗や寺、かどや等の十九団体で結成された「鳥羽なかまち会」の活動は、市内外の団体等から注目されている。最近は、地元の小学生や高校生も関心を寄せてくれるようになった。

《鳥羽小五年生が会議に参加》

鳥羽なかまち会は毎月定例会議を行い、活動報告や課題等を検討しているが、一月の例会には鳥羽小学校の五年生二十八名が参加してくれた。

そもそもは、鳥羽市の移住・定住担当の市職員が鳥羽小で出前授業を行い、「人口減少が続いているが、移住者に好評な地域がある」と紹介したところ、児童たちから「どついう魅力があるのか見てみたい」との声があがり、昨年十月にはなかまち見学を行い、今回、例会への参加が実現した。

通常の例会は、午後七時から同会の活動拠点であるギャザリングスペース・クボクリで行っているが、



なかまち会の概要説明を熱心に聞く児童たち

かどやで実施した。

当日は、事項書に従い活動報告や検討事項を討議した後、児童たちも参加して地域活性化について意見交換を行った。児童からは「なかまちマラソン」の実施や、「なかまちせんべい」の提言が出され、「なかまちが目指すゴールとは」とか「夜に会議をして疲れませんか」など小学生ならではの質問も相次ぎ、大いに盛り上がった。

終了後、同会メンバーは「我々の子供の頃と比べると、すごくしっかりしていて驚いた」「いい刺激をもらった」等と感心することしきりだった。また児童たちからは「いろいろな人がなかまちを盛り上げよう」と頑張っていることがよく分かった」との感想が寄せられた。

今回
は児
童た
ちが
参加
しよ
う
すい
よう
午前
十時
から

《鳥羽高校生、鳥羽学の成果発表》
鳥羽高校二年生の生徒たちが制作したなかまちの看板と短編動画の発表会が二月二十日にかどやで開かれ、なかまち会のメンバーや近隣住民等、約二十人が参加した。

同校は、鳥羽高校活性化協議会で提案された鳥羽市との連携事業として「鳥羽学」を授業に組み込み、文理進学系の二年生二十三人が週一回、「なかまち」と、海女と漁師の町「石鏡町」を対象に活性化策を検討してきた。

なかまち担当の十四人は、一班に分かれ、看板制作と動画撮影に取り組んだ。看板班は、豆腐店、酒屋、定食屋等を対象に、店名や営業時間等を工夫して手書きした看板を紹介。動画班は、なかまちの魅力を盛り込んで制作した「なかまち かえりみち」と「蘇る風景 なかまちの記憶」を初上映した。

高校生の思いの込めた力作に住民から暖かい拍手が送られた。



看板に込めた思いを話す高校生たち

小さなお客様の来館、続々！

かどやの入館者は熟年層の方が多いが、一面で紹介したように、高校生や小学生等、若い世代も増えている。一月には幼稚園児と小学三年生が見学に来てくれた。

《かわいいさん心奪われて》

鳥羽市立かもめ幼稚園の園児たち四十六人が一月二十日、藪田恵さん制作の「メグのこころ」動物園Ⅱ」と題した羊毛フェルトの作品展を見学に来てくれた。

藪田さんの作品は、動物たちのリアルでかわいい仕草が定評で、「癒される」「いつまでも見ていたい！」等と来場者の心を魅了してきた。この展示を見た同園の関係者が「ぜひ園児たちにも見てもらいたい」と、働きかけて実現した。



当日は五歳児のぞつ組から四歳のうさぎ組、三歳のひよこ組が順番に見学したが、どの組もまず「かわいい！」と歓声をあげ、嬉しそうに作品を見つめていた。展示を見た後は、台所や広間

等も楽しそうに見学していた。

園児たちの様子を見守っていたかどやスタッフは「嬉しそうなお表情を見てると、癒されるなあ」と、園児たちのかわいさに頬が緩んだ。

《小学生、昔の暮らしを学ぶ》

弘道小学校(鳥羽市相差町)の三年生九人が一月三十一日、社会科学授業の一環で、昔の生活用具を調べるためかどやにやってきた。鳥羽小学校の三年生は平成二十七年から毎年見学に来ているが、弘道小学校からの見学は今回が初めて。

一行は到着すると、まずは玄関で薬屋を営んでいたかどやの歴史を聞いた後、生活道具が展示されている台所に移動し、羽釜や石臼、火鉢等の説明を聞いた。児童



たちは、見慣れない道具類に興味深げに見ながら熱心にメモを取った。その後、館内を自由に歩き回り、色ガラスや古いオルガンにも興味を示してかどやのスタッフに質問するなど、知的好奇心を大いに発揮していた。

今年もかどやでひな祭り

一月の展示は恒例の「かどやのひな祭り」だ。江戸期から昭和初期の雛飾りに加えて、伊勢市の手芸サークル「まいペース」(主宰：井沢喜美子さん)の皆さんのかわいい人形たちも登場した。

《時代の変化を告げる雛飾り》

かどやの雛飾りは、明治時代に作られた廣野家特製の御殿雛をはじめ、江戸時代に鳥羽で青果店として繁盛していた土路屋(注：土路は伊勢の地名。昭和三十年頃まで鳥羽と交易があり、農業が盛んな土路の野菜を販売していたことから屋号を「土路屋」とした)所有の江戸期の雛飾り二組と、昭和中期まで酒蒸し饅頭が人気の和菓子店・武蔵屋から寄贈された昭和初期の御殿雛の四組だ。



今では珍しい御殿雛

江戸く明治の人形の顔は、丸顔でぱっちりした目ではなく、公家風のうりざね顔が特徴だ。また、かどやと土路屋の飾りには馬に乗った公家風の男性を中心に

た行列も飾られている。御殿雛の御殿は御所の紫宸殿を模したもので、行列も御所の生活を再現したものだ。御所は畏れ多いとして江戸では御殿を敬遠するようになったそうだが、関西では大正時代までは御殿は一般的だったようだ。しかし、昭和三十年代以降はほとんど見られなくなり、かどやの展示はどれも雛飾りの歴史を物語る貴重な資料となっている。見学者も「こんなお雛様は初めて」と写真に収める人も多かった。

《日本の原風景にほっこり》

今回が二度目の展示となる「まいペース」さんの作品は、雛飾りはもちろんだが、昭和初期頃までの日本の子供たちの遊びを表した人形たちも好評で、「心がほっこりする」と長い時間眺めていくお客様も多かった。

また、干支の吊り飾りや、月毎の特徴を表現したタペストリー等、アイデア溢れる作品に「発想が素晴らしい」等、感嘆の声が上がっていた。



いにしへの音色に触れて 華・オルガンでタイムスリップ

かどや屋下がりコンサートは毎月、様々なジャンルの演奏を楽しんでいただいている。一月は日本らしい正月気分を味わっていただくこと、毎年箏の演奏会を開催している。二月には、現在は日本国内では製造されていない足踏みオルガンを使ったコンサートが行われた。いずれも普段聴く機会の少ない懐かしい音色を楽しんでいただいた。

《箏で初春を祝う!》

令和初の新春コンサートは、例年通り伊勢正派松朋会小山社中の皆さんによる箏の弾き初めが行われた。今回も尺八と三味線が加わり、お正月には定番の宮城道雄作曲の「春の海」をはじめ六曲を演奏した。

気品ある箏の音と相まって、か



つての日本の正月風景を思い起こさせる静かで華やいだ時が流れた。

《オルガンの魅力再発見!》

二月には「バレンタインはジャズオルガンで」と題し、廣野家(かどや)の蔵から見つけた明治三十年代製の長尾オルガンに加え、鳥羽長尾オルガン協会所有の明治・大正・昭和製の四台を使って行われた。

演奏は、伊勢を中心に活躍しているサククス奏者の宮崎義明さんとベースの桜井理さん、オルガンには普段はピアノを担当している伊藤君代さんが挑戦。かどやでもお馴染みのMINAMIさんもボーカルで加わった。

今回使用されたのは、鍵盤三十九鍵の長尾オルガンをはじめ、明治末期に製造された同じく三十九鍵の山野オルガン(現・東京銀座の山野楽器に関連したものと思われる)、大正十年代の四十九鍵の西川オルガンと昭和四十年代の六十一鍵ストッ

今では珍しいストップ付



プ付きのヤマハのオルガンだ。これら四台は、それぞれに

微妙な音色の違いがある。柔らかな音色でスローな曲が似合うもの、音の切れがよくアップテンポな曲がぴったりなもの等々。特徴が異なるため、選曲は慎重に行なった。

屋下がりコンサートのリハーサルは当日の午前中に行うのが通例だ。しかし長尾オルガンは通常のキーより半音高く設定されているため、事前の音合わせが必須で、一月三十一日の夜にリハーサルを行った。各オルガン独特の音色を生かすため、選曲も綿密に行なった。

オルガンを演奏する伊藤さんは、 Hammondオルガンは演奏するが、足踏み式は今回が初めて。足踏みオルガンは、足踏み三年と言われるほど、上達には足踏み練習が欠かせない。残念なが



リハーサルでオルガンに合う曲を模索

ら伊藤さんには本番まで練習の機会はなかったが、当日は素晴らしい音色を聞かせてくれた。

ボーカルのMINAMIさんはパンチのきいた力強い歌声に定評があるが、今回はオルガンの音色を



しっかり聞いてもらおうと、やや抑え気味に歌ってくれた。おかげで、お客様に各オルガンの特徴を

楽しんでもらうことができた。

オルガンは、明治時代に日本に紹介されてから、主に学校での音楽教育で伴奏用に使われて普及してきた。しかし、今回は伴奏だけではなく、主役にしたが、ジャズでもその魅力を大いに発揮してくれた。お客様からは「オルガンの良さが分かって、楽しかった」とのコメントをいただいた。

時代を語る薬舗の看板たち

かどやの玄関には明治時代にかどやの軒先に掛けられていた薬の看板四枚が展示されているが、このほど同時期のものと思われる看板五枚が加わった。

前述の四枚はかどやが作ったものだが、新たな五枚は薬の製造元が作ったものようだ。内一枚には「志摩鳥羽港 廣野氏謹製」と書かれており、かどやにまつわるものと判明。薬のネーミングも興味深いものばかり。また、それぞれの看板には薬の名前の横に「内務省免許衛生之良劑」や「大阪病院教師エルメシンス先生方劑」と書かれたものなど、当時の薬事情が分かる貴重なものだ。この存在を知った教育委員会のフミタカさんは、これらを購入し、寄贈してくれた。この話を聞いたか



どや保存会の清水前会長等有志が寄付を申し出てくれており、現在も受付中だ。そんな歴史ある看板を、見に来られませんか！

縁の下の仲間たち⑩

先人たちの仕事に感謝！

かどやスタッフの大仕事の筆頭は、お雛様の飾りつけと片付けだ。

今年も一階の武蔵屋さんの御殿雛は組み立てが大掛かりのためユウジさんとヨネちゃんが担当。土路屋とかどやは、カヨさんやセツちゃん、マーちゃん、ユコリン等の女性陣が受け持った。年に一度の仕事のため毎回「これどうするんやっただけ？」「あれ何処にしもたんやろ」等、右往左往する。また、かどやの御殿雛は長い年月を経て非常に脆くなっており、組み立てには細心の注意が必要だ。人形たちの配置は以前の写真を参考にしながら、これまた毎回、「なんか変やなあ」とインターネット等で確認する。特に公家風の行列は資料がなく、想像力を駆使して配置したが、百年を超える人形たちはすべてがもろく、緊張の連続だ。

女性陣はこの作業に毎年ほぼ四人がかりで半日を費やしているが、四年前までは教育委員会のフミタカさんが孤軍奮闘していた。フミタカさんはかどやが一般公開する前から毎年桃の節句には蔵から運び出して飾ってくれていたため当然のように感じていたが、実際に体験してみると、その大変さに頭が下がる。廣野家九代目の重子はあちゃんも孫娘のために毎年一人で飾り付けを行っていた。フミタカさんや重子ばあちゃんの努力の積み重ねがあったからこそ、「珍しいお雛様を見られてよかった」とお客様に喜んでいただける今がある。先人たちの細やかな仕事には感謝あるのみだ。

◆◆◆ 貸部屋の案内 ◆◆◆
かどやを有効にご利用いただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご利用ください。詳細は、かどやへ。

電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 令和2年度会員募集開始！

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

31年度は令和2年3月15日現在で306名と、残念ながら30年度より約50名減少しました。しかし、令和2年度も一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、スタッフ一同日々努力を重ねてゆく所存です。つきましては、新年度も引き続きご支援賜りますよう、会員の継続を何卒よろしくお願い申し上げます。

令和2年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751